

月報 岡崎の教育

6月号



このひそやかなみどりは
ニシキギとウメモドキ
こちらのはガマズミ
カサカサと
かたい音をたてているのは
ヤマモモにヤブツバキでしよ
うアセビは
もう白い花を落としましたよ
ソゴゴにシラカシが
空に向かって伸びています
リョウブやコナラも
負けてはいませんね
みどりの中でひとときわ目立つのが
アカメガシ
これらはみんなふるさとの木
わたしたちを育ててくれた
木ですよね

昭和54年6月1日
編集／発行
岡崎市教育委員会



(緑の中で学ぶ—河合中)

K子の留学

諸熊 盈子

二年前、十数年間のアメリカ生活を切り上げて帰国を決意した時、当時中学一年生の姪のK子を我々の帰国時迄の半年間留学させて、地元の学校へ入れてみたいと思いついた。東京近郊の中学に学ぶK子は、成績はずっと一、二番を争う程ではあったが、英語は習いはじめたばかりで、話すことも、聞くこともりに近かった。が、両親は我々の提案にほとんど即座に賛成した。それは、中学に入ってからで激しくなった成績争いの渦中で、目の先の勉強に熱中している娘に別の世界を見せて、視野を広げさせたいと願ったからである。

我々の住んでいた町の公立学制は、四四四制で、中学は五年から八年迄となっていた。日本で七年生に当たるK子をどの学年に入れるかは、受け入れ校に一任



した。我々は、近所の女子中学生数人にK子の来ることを話しておいたが、その内の六年生二人が、早速校長室へ出かけて自分達がK子の面倒をみたいから、同じ組に入れてほしいと申し出てくれた。

登校初日、零下十数度の寒さの中を、二人が迎えてきてくれたが、「学用品に不足はないか。」「着ているものが薄すぎはしないか。」等、まるで年下の少女をかばうように親身になってくれた。

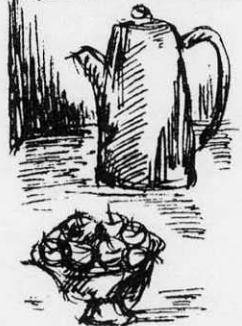
学校では毎朝K子のために、別室で一時間の英語の特訓を計画してくれ、外国人に英語を教える専門家の指導で、間もなくK子も簡単なことは意志を通じさせられるようになった。最初の通知簿には、まず英語の進歩を最大限にほめ、K子の参加できた科目については詳しい報告があった。また、人格評価の欄には当人の

努力のすばらしき、級友達が彼女を迎えて得たもの大きさが述べられていた。そして、いよいよ学年末の六月に入り、研究発表の時から来て、K子も朝の個人指導教官の助けを借りて、「折り紙」の歴史についての論文をまとめ、毎大家族の前で練習して当日に備えた。結果は大好評、実演に折った作品のいくつかは、K子の想い出として学校に残されることになった。

こうして、遠い国からたった一人やって来たK子に、学校ではできる限り他の生徒と同じようにさせながらも、細かく行き届いた配慮をしてくれた。学校外でのK子の生活もすっかり違ったものになった。日本に比べて勉強に追われることの少ないアメリカの子供達は、実に積極的に、多方面に活躍するが、家事への参加、子守りのアルバイト、ガールスカウトでの活動、週末の友人達との泊り込み等、今迄何事にも無気力というよりは学校の勉強しか知らなかったK子も、初めは気の重いまま、後には生き生きと参加するようになった。K子自身や、我々ととりわけ感心させたのは、二人の女の子の、六年生とは思えない見事な世話人振りであった。K子のアメリカでの友人の何人かが自分達が日本へ留学することを夢見ているが、日本の公立学校とその生徒達に果たして立派にホストがとまるだろうか、いささか心細く思われてならない。

(主婦)

海外こぼれ話



キユーバあれこれ

大久保慎一

「大久保君、キユーバに行ってくれ、独身の君ならいいだろう。」の一言で、その月末、機上の人となる。苦痛の二十八年間を経て気がつくと、強烈なサンバのリズムと朝の陽光に包まれたハバナ空港に着陸。平和友好祭日本代表団の一員として、初の海外である。

三週間のキユーバでの生活は、まさに忍耐の一語に尽きる。

まず、三週間、風呂に入れなかったこと。34度の気温に冷房もなく平然としていなくてはならないこと。一度刺されたら一ヶ月は痕が残る強力な蚊の大群。それに食事にも参った。三度三度のトリのもも。滞在中20数匹が私の犠牲、以来トリ肉恐怖症。

キユーバ人はくったくがない。踊りと歌が好き。『ジェンカ』を延々2時間踊るスタミナと、どこで知ったのか、斉太郎節を気持ちよく歌うリズム感がある。キユーバにも日本がある。セイコウが

岡崎電鉄

市内線今昔

チンチン電車で親しまれていた市内線が廃止されて、すでに十六年余が経った。

明治三十二年一月に、三島村の殿橋南詰めから、羽根村岡崎駅間に馬車鉄道が開通したのがはじまりで、大正元年九月には、同区間が電化、電車の運転となった。

その後、殿橋から井田間が、さらに井田から門立間六・五キロの開通をみた。

それより前、明治四十四年十月には、岡崎新駅から西尾間十三・三キロに狭軌蒸気列車が運転されており、市内線によって南北が結ばれることとなった。

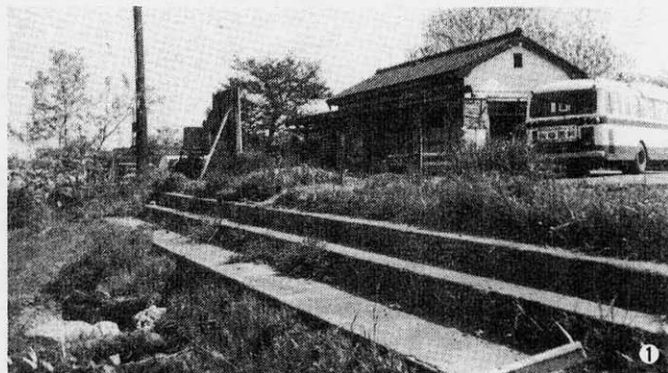
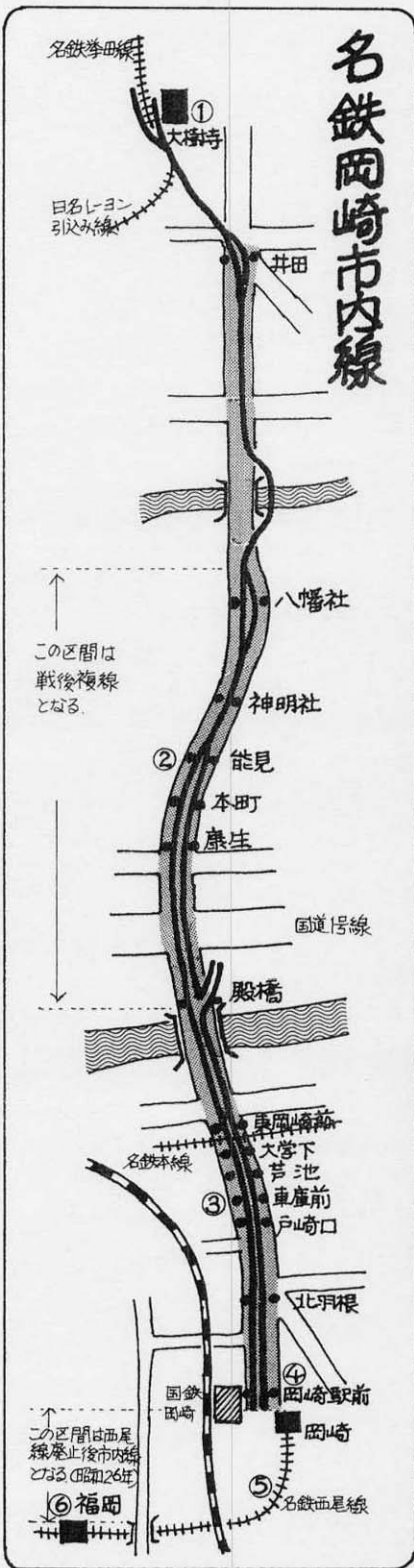
第二次大戦の昭和十八年十二月、岡崎新駅

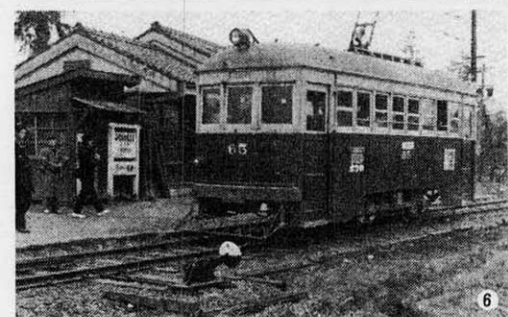
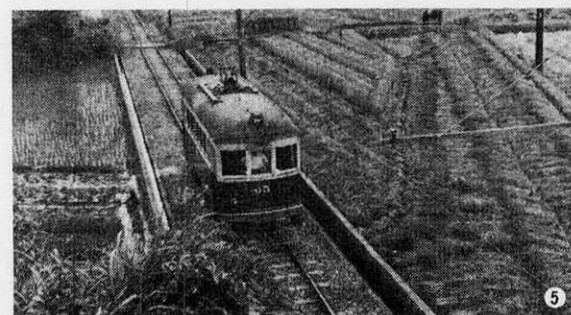
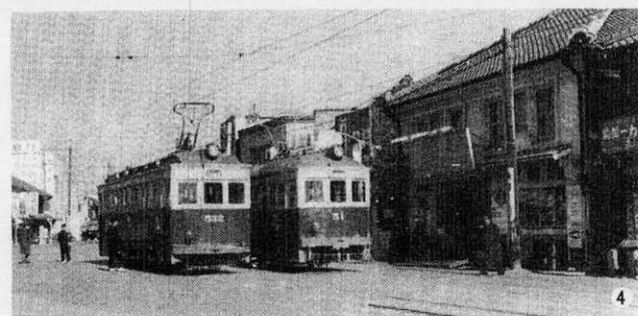
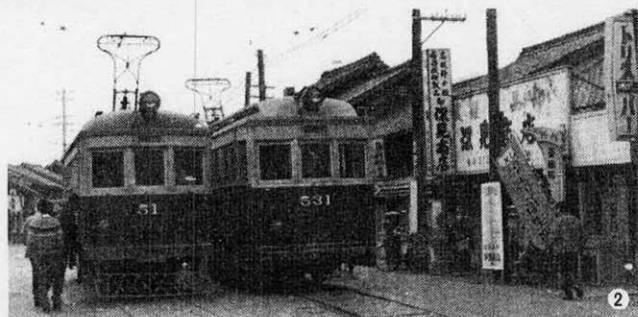
西尾間の営業が休止され、二十年七月には岡崎の大火襲で、市内線も大きな打撃を受けた。

戦後、道路の幅増で殿橋、能見間が複線となり、中心街の発展に大いに貢献した。また昭和二十六年には、休止していた岡崎駅、福岡町間が営業を再開、チンチン電車が福岡町、大樹寺間を往来することになった。

多くの客を運び、親しまれ愛されたこの電車も、時代の波には勝てず、昭和三十七年、ついに六十余年の歴史を閉じた。

今日、残るものは数少いが、その姿から当時を偲ぶ人も多からう。ここに廃止近いころと今の姿を、一部登場させることにした。





国語が好き

広幡小 後藤志津代

「二段落は、葉が落ちた木と、葉をつけている木のことが書いてあるけれど、三段落は、葉が落ちた木のことと書いてあると思います。」

「三段落の②の文は、『いいえ』があるから、作者は①の文より②の文のことを言いたいのだと思います。」

「五段落の『ためには』ということばは、だいいじなことばだと思えます。その次に作者が言いたいことが書いてあるからです。」

「八と九の段落は、葉のついていない木のことだから、二段落と関係があります。」

子どもたちの活発なやりとりを聞きながら、(何とか自分なりに文を読みとっていく姿勢ができてきたかなあ。)と思う。

昨年度、部会で『説明文の読解』を研究主題にしてから、中学年では、読みとりの手だてとして、次のことがらを心がけてきた。

1、段落の中の重要語句をみつ

りを図に表してみる。

2、段落相互の関係も図に表すことで、文章の全体構造をとらえることができる。

3、接続詞、助詞、指示語等を含めて、ことばの学習を大切にする。

4、読みとりが技能に傾くことのないよう、子ども感想、想像力をだいいじにして情緒豊かな学習を心がける。

5、読みとった文章全体の構成を、作文に生かす。

はじめ戸惑った子どもたちも、学習の仕方がわかると、どんどん「ひとり学び」をしてくるようになった。文章をくわしく読む読み方は、説明文でも物語文でも同じである。

「先生、作者は、やさしさとけなげさを持った人が好きだと

言っているのだと思えます。」

「やまんばは、あやの心の中に、着物よりきれいな花をプレゼントしたんだね。」

と「花咲き山」の学習で感想を述べたのは、わんぱく坊主のT児、落ちつきのないA児である。

「国語なんかきらいだ。算数の方がいい。」
と言っていた学級一の問題児であるS児のノートも、このごろ自分なりに読みとった書き出し

ができています。

「先生、算数より国語の方が好きになっちゃった。早よよろ。」
と、他の子どもたちともども、やる気である。

(この子たちの「やる気」を伸ばすもつぶすも私だ。)

と思うとき、責任の大きさに姿勢を正し、この子らの何十倍もの「ひとり学び」をしなければ追いつかないと思う。

教育日々



飛ぶ虫つかまえた

細川小 二瓶千秋

「ヨイ、スタート。」
今までの静寂がいちどに破られた。

「おい、お前はミミズをさがして来い。おれはテントへ行つて新聞や針金を取つて来る。」

「毛虫はだれがさがす。堀さんね。頼んだよ。それから白くて丸いものもさがしてね。私は木の根っこをさがしに行くね。」

一度リーダーのまわりに集まったかと思うと、走り回っている。まるでハチの巣をつついたような騒ぎだ。

「飛ぶ虫をつかまえたぞー。」
「まだ毛虫をつかまえていないぞー。」

「みんな、あとミミズだけだ。」
といった声、声。

山の家の第三日め。今日の予定は飯盒炊飯と物品返納だけだった。二回目ということもあり、ときはぎと進み、計画になかった一時間が生まれた。

いったんは自由時間としたが、小学校最後の山の家であり、その最後の日にだからと時間を過ごさせてはもったいないと、



急ぎよ宝さがしゲームを計画したのである。

生きたアリ一匹、新聞紙、木の根っこ、針金……五

きれいな葉三枚、まつぼっくり四個、白くて丸いもの

……十

生きた毛虫、ミミズ、飛ぶ虫、

……二十点
と思いついたまま品物をあげ、点数を与え、五分間という時間制限を加えた。

全部をさがした班が四つあり驚いた。翌日の日記には、

「宝さがしゲームもおもしろかった。私は生物類はぜんぜんつかめなかつたけど、グループの林さんが飛ぶ虫をつかまえてくれて満点でした。これも協力があったからだと思う。」
という一節があった。



八年目を迎えた

教員の県外研修

—その成果を期待して—

〔寄贈研究物・資料等〕
 ◇豊かな人間性を育てる家庭科学習の追求
 現職教育委員会家庭科部
 新指導要領実施を前にして、自ら考える力を養い創造的な知性と技能を育てることを目標とした実践の記録・B5版

◇学習の進め方 葵中学校
 昭和四十五年に刊行したものを再々にわたり改訂してきた学習の手引き書、内容は「いかに学んだらよいか」を示した一般篇と、教科ごとに「なにをどのように学ぶか」を示した教科篇で構成。B5版、学年別冊

市費派遣の教育県外研修は、第八年目を迎えることになりました。これまでの成果は大きく、さまざまな尊い体験が生きた研修として高く評価されています。

第八年目というのは、第二期の二年目を迎えたということで、研修の方法もこれまでの反省をもとにして、より一歩前進したものに育ってきました。特に関係各方面の格別な御理解、御配慮によって、より多人数の人に参加していただけるようになりました。このことはまことによろこばしいことであります。

他郷に足をはこんでこの研修を、教育研究や視察の面からの成果は勿論のこと、人間的な出会いの面からも巾広い成果を期待いたします。即ち、教師と

しての資質を高め、あわせて幅広い視野と大きなスケールを持つ人間性豊かな教師をめざす研修の場として、その意義は大きいものがあると考えます。

◆参加人数

- 校長 一〇人
- 教頭 一〇人
- 教諭 二六〇人

(教諭には、特別班、幼稚園教諭を含む)

◆実施方法

- 研修は原則として二泊三日以内とする。
- 参加のしかたは、

(1)班を編成して参加する研修、

- ・同じ教科の人による教科班
- ・いくつかの教科・領域をまとめた混成班

・特別に編成した特別研修班

(2)学校単位または個人の希望による自由な研修。

(3)県外で開催される研究会や研究大会に参加する研修。

◆実施期間

昭和五十四年六月から、昭和五十五年一月までに実施する。なるべく一学期、二学期のうちに実施することが望ましい。

◆研修のまとめ

- (1)研修終了後、班ごとに反省会をもって研修成果をまとめることが望ましい。
- (2)実施報告書の提出

- ・実施報告書は更紙一枚以内
- ・報告内容および記述形式は自由

・実施後、一か月以内に百部印刷し市教委へ提出

岡崎市

教育研究論文

募集要項

一、趣旨

市内幼小中学校(園)の教職員の日ごろの研究と実践の成果を広く募り、学校教育の健全な発展をはかるとともに、その努力を顕彰しようとするものである。

二、部門

- (1)個人研究 (2)共同研究

三、字数

本文一、二、〇〇〇字以内
 (四〇〇字づつめ原稿用紙使用表・グラフは本文の字数に含む)

四、提出

- ・提出期限 十二月一日(土)
- ・中間報告 八月十日(金)
- ・報告、提出先は市教委学校指導係へ

五、表彰

入賞 若干名
 (教育委員会賞、努力賞)

六、備考

- ・応募部門、題名、所属学校名、職名、氏名(共同研究は、代表者及び全員の氏名)を表紙に明記すること
- ・校長がとりまとめて提出

学校・先生の著作紹介

- (1)書名 遊びの中で

育つ子ら

- (2)著者 岡崎市立広幡幼稚園

園

- (3)発行所 北大路書房

- (4)版形・頁数

B6版 二六四頁

★ 子ども達は、かけまわり、よじ登り、遊びにうち興じているとき、からだも力も強くなっています。

どろんこになって砂遊びに熱中している中で、事が見え、工夫をし、認識力や創造力が培われていきます。夢中で虫をおいかけているとき新しい発見をし、知識を獲得し、驚きやいたわりを覚え、感受性が養われていきます。無心に遊びに没入している中で、子どもの心もからだも育つのです。子どもの遊びは成長の連続です。子どもが遊びの中で試行錯誤していく過程に目をむけ、そこから生まれ育つていく実体を把握し、そのかわり方を考え、環境づくりをしよう。

「あながき」より

岩 滓 噌 味



所在地一岡崎市上里町

「昔あさひ長者と呼べる長者あり、岩津村大門に大いなる門を有し字藏前に蔵を置き井の口に井を有する程の勢力家なりき。」

これは『額田郡史』に「味噌滓石」と題して採録されている、この岩にまつわる伝説の冒頭である。大門、蔵前、井の口を線で結んでみると、なるほど長者である。

この長者、ある日外出先で子供達にいじめられている白蛇を助けてやった。その夜、枕元に白蛇が現れ、昼間のお札を言い小犬を一匹プレゼントした。こ

の小天、不思議な力をもっており、米一合を食わせると、純金一合を排泄してくれるという大変な犬だった。お陰で長者の門は大いに栄えることになった。そして、朝晩作る味噌汁のカスを青木ヶ原に捨てているうちにとうとう味噌カスで岩ができてしまったということである。

市緑化センターの南、二四八号線沿いに、コンクリート造りの堂があるが、味噌滓岩を削り取った跡に建てられたものという。

堂の裏へ回ってみたら、赤茶けた岩が地面からのぞいていた。

●カット

葵中

大野 幾生

日本を

- | | |
|-----------------|----------|
| ○弘達喧嘩囃 | 藤原 弘達 |
| 読売新聞社 | ¥ 850円 |
| ○食卓のない家 (上・下) | 円地 文子 |
| 新潮社 | ¥ 950円 |
| ○子どもの心と発達 | 園原 太郎 |
| 岩波新書 | ¥ 320円 |
| ○子どもの発想を育てる | 丸本 喜一 |
| 初教新書 | ¥ 1,200円 |
| ○兎の眼 | 灰谷健次郎 |
| 理論社 | ¥ 980円 |
| ○中学生はいま | 中日新聞 |
| 中日新聞社 | ¥ 1,000円 |
| ○父の詫び状 | 向田 邦子 |
| 文芸春秋 | ¥ 950円 |
| ○親は子に何を教えるべきか | 外山滋比古 |
| PHP | ¥ 980円 |
| ○日本人の五感 名工たちの科学 | 毎日新聞編 |
| 毎日新聞社 | ¥ 880円 |
| ○二人四脚 | 久保 継成 |
| PHP | ¥ 880円 |

おんぶすること、されることの手先の子が多いなあ。後ろにそり返つてしまふ者、途中でずり落としてしまふ者……。それというのも、子供たちの生活におんぶするということがほとんどないからだろう。ボクは、妹を背中からおろした時の、ほっとした気持ちだが、今でも忘れられないなあ。

オアシス

死んだはずだよお富さん、生きていたとは……の歌ではないが、農薬で絶滅したと騒がれた沢ガニやどじょう、タニシが見られるようになった。石油不足が話題の昨今、エネルギーを支えるために石炭を見直すという。封じ込めた石炭が再び登場しようとは、おしゃか様でも思っていないかただろう。

朝、日の登らぬうちに見る朝顔は、夏の清涼剤にふさわしい。あまりにも短命で惜しい気がしてならないが、淡い色は何ともいえぬおくゆくかしさを感ずる。

朝顔につるべ取られてもらい水人は自然と協調することで潤いをもつのは、今も昔も変わりはない。

スーパーマンの復活だそうである。先日も、「あつ、スーパーマンだ！」という子どもの声に振り向いてみると、女の先生のＴシャツの胸に色も鮮やかに「S」の文字。

月光仮面からウルトラマンまで、変身するものに憧れるのは、どうやら子どもばかりでもなさそうである。